

アーメン

知っておきたいキリスト教のことば (1)

キリスト教ではない人たちがキリスト教といって真っ先に思い浮かべるのは、「アーメン」とみんなで唱える場面なのかもしれません。しばしばキリスト教徒のことを「アーメンさん」、教会を「アーメンの所」と呼ぶ人もいます。(実際にわたしの父はそう呼んでいました)。



この「アーメン」という言葉ですが、もともとはヘブライ語で、「堅固な」、「確立した」、また副詞的用法として「もちろん」、「確かに」という意味を持ちます。今でも礼拝の中で、お祈りの最後に声を合わせて唱えますが、「アーメン」を唱えることによって、そのお祈りの言葉が「そのようでありますように」という信仰と同意を明らかにするのです。

聖書の中を見てみると、旧約聖書にも新約聖書にも「アーメン」という言葉はでてきます。新約聖書ではパウロが書いた手紙の祈りの最後に出てくることが多いです。しかし、新共同訳聖書では分かりづらいのですが、イエス様も「アーメン」という言葉を用いています。「はっきり言っておく」と訳されている箇所がそうです。例えばマタイ福音書 5:26 ですが、ギリシア語では「アーメン レゴ（言う） ソイ（あなたに）」となっていますので、文頭に「アーメン」がついているのが分かると思います。特に大切なことを言われる時に、イエス様は「アーメン」と最初につけたとされます。

さらにヨハネ福音書には、「アーメン アーメン レゴ（言う） ヒューミーノ（あなたがたに）」という箇所（ヨハネ 1:51 など）も見られます。新共同訳聖書ではマタイと同じように「はっきり言っておく」となっていますが、口語訳聖書ではマタイは「よく言っておく」、ヨハネは「よくよく言っておく」と違う訳になっています。だからどうしたということですが。

これで「アーメン」という言葉の意味が、少しはお分かりいただいたでしょうか。「そう思う」と言う方はご一緒にどうぞ。「アーメン！」

次回は「愛」です。お楽しみに。